公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年3月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会④）・・1
◆神奈川支部からの情報
「全国を対象にした鳥の行動のデータベースをつくることの大切さ」・・・・・・・・14
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・16
（2016年1月分）
◆ミニニュース・・・・・・・・・・・・・18
日本野鳥の会群馬で、探鳥会担当者交流会が開催されました
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・19
・新小冊子「おさんぽ鳥図鑑」が発行されます！
・勉強会のご案内「バードウォッチングから始まる環境にやさしいライフスタイル」
・2016年度「野鳥の子育て応援（ヒナを拾わないで）キャンペーン」が始まります
・バードウィーク全国一斉探鳥会の広報をします
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・23
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・24
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・24

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会④）

11月から、関東ブロック及び近畿ブロック所属の12支部と開催を続けてきました「会員を増やすための探鳥会」が2月末で終了致しました。

雨天中止となった2か所を除き、計21か所で開催、全体で891名の方にご参加頂き、そのうち非会員は799名（全体の9割）、お試し入会は125名（非会員の2割）でした。

結果一覧を13ページに掲載しています。

今月号では雨天中止となった山下公園（神奈川支部）を除く以下の5か所をご紹介します。

表1.

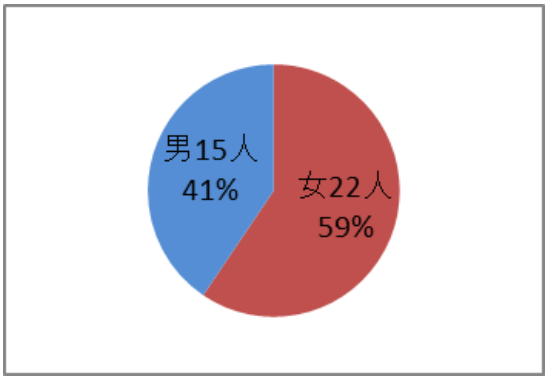
	開催日	支部名	開催場所
No18	1/23(土)	神奈川支部	江ノ島
No19	1/31(日)	大阪支部	服部緑地
No20		群馬	敷島公園
No21	2/13(土)	栃木	栃木県中央公園
No22	2/14(日)	神奈川支部	山下公園
No23	2/27(土)	栃木	小山運動公園

※No22 神奈川支部での探鳥会は雨天中止となりました。
※No23 栃木での探鳥会は当初の予定「思川河川敷」から「小山運動公園」へと変更になりました。

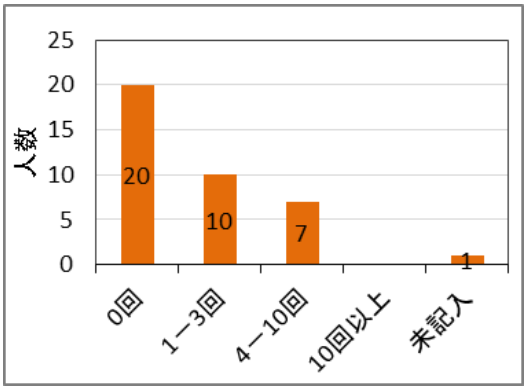
『初めてのバードウォッチング in 江ノ島』（神奈川支部）

【日時】2016 年 1 月 23 日（土）9 時～12 時頃
【天候】曇り
【場所】江の島
【参加人数】38 名
【リーダー】10 名
【お試し入会】7 名（非会員のうち 2 割）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信
（1/13 に関東＋福島、新潟、静岡、長野、静岡の 16,578 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（11/20 から全国 27,000 名に送付）

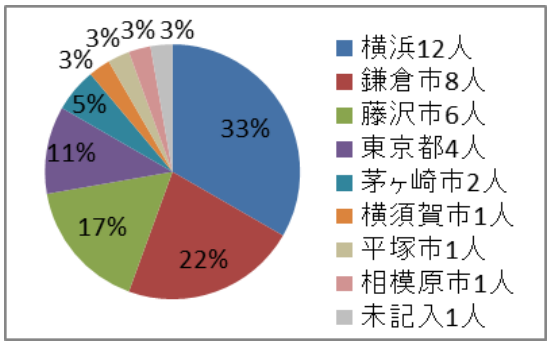
【性別】



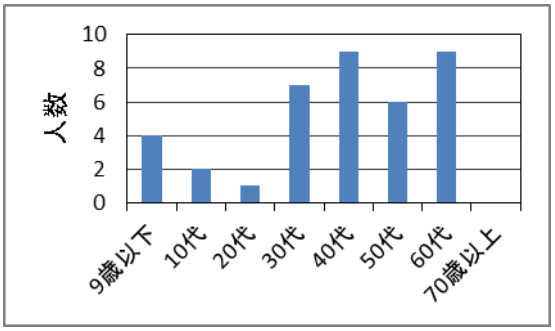
【バードウォッチングの経験回数】



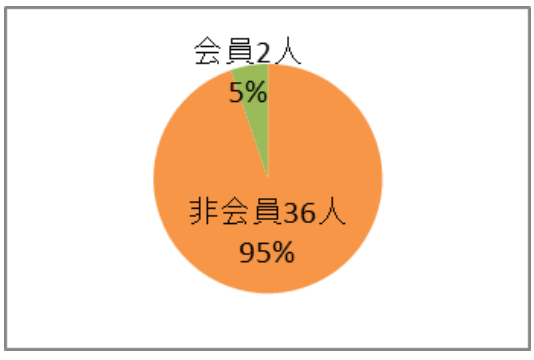
【お住まい】



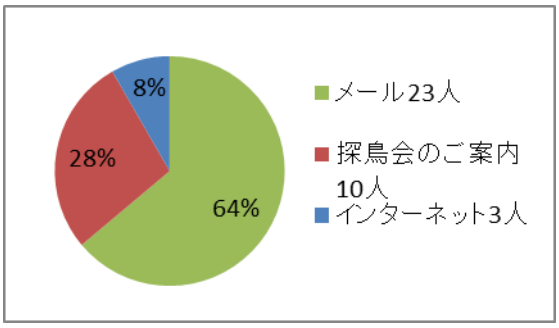
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

江の島は、神奈川県藤沢市にある湘南海岸から相模湾へと突き出た島です。湘南を代表する景勝地であり、古くから観光名所として賑わっています。

当日は事前申し込みで集まった 23 組 38 名（都合により９組 15 名がキャンセル）に対して、探鳥会を開催しました。事前に参加者を３班にわけ、それぞれ参加者 11～14 名、リーダー3、４名の体制で対応しました。

集合場所の片瀬江ノ島駅から漁港や江の島へと続く橋を歩くコースを約２時間 30 分かけてまわりました。また午後にも、希望者を対象に島内における約 1 時間の探鳥会が設けられ、13 名が参加しました。

■探鳥会の様子

天気は曇り、気温は５度と冷え込む中での開催となりました。

集合場所ではリーダーが班ごとに ３ ヶ所に分かれ、それぞれの班の参加者の受付をしました。受付では、班分けの色リボン、ミニミニ野鳥図鑑などの資料、希望者には双眼鏡をお渡ししていました。

全体でのあいさつの後、班ごとの行動になりました。私はＢ班に加わりました。

班で集まると、まずリーダーの自己紹介がありました。

「今日は皆さん初参加の方なので、楽しいバードウォッチングになるよう鳥の見つけ方など分かりやすくお伝えするようにします。」

との言葉に、参加者もほっと安心したようでした。

その後、双眼鏡について、ピントの合わせ方や鳥の捉え方などの説明がありました。

漁港に移動すると、数種類の水鳥がいました。リーダーが

「まずは泳いでいる２羽のカモを見てみてください。」

と誘導します。

「頭が赤いのが特徴で、ホシハジロと言います。冬に日本に渡ってくる渡り鳥です。」

参加者にとっては、渡り鳥が新鮮だったようで感心の声が上がります。続いて、スズガモ、オオバン、カワウ、カンムリカイツブリと一種ずつ紹介していきました。

「ここだけでも５種類を十分楽しめます。少し鳥がわかると楽しくなりますよ。」

とのリーダーの声に参加者も納得の様子です。

しばらくするとカワウが海上で群れになっている場所があり、そこにトビが現れました。

「トビの特徴は、尾が三味線のバチのように角張って見えることです。また広げた翼に一部白い部分があることで、トビかトビ以外のタカかは区別することができます。」

「カワウが多い場所には魚がいるのでしょう。ヒイラギと言う魚をを咥えているようですね。トビはおこぼれを得るために集まっています。」

と、リーダーが状況を伝え、皆で観察しました。

その後、堤防で休んでいたカモメの見分け方の説明があり、参加者は、

「今までカモもカモメも一種類だと思っていました。ここはじっくり見られて初心者に良い場所ですね。」

と満足気でした。

▲写真を使ってカモメ４種の見分け方を説明中

■参加者の声

20 代女性：鳥が好きですが、これまで敷居が高く感じられて参加できませんでした。インターネットで見つけて初心者で向けだったので、参加しました。

50 代女性：以前ツバメの調査に参加してから、イベント情報が届くようになりました。気になるものの参加できていませんでしたが、今回自分の住んでいる街での開催だったので、参加しました。

■まとめ

バードウォッチング初心者である参加者に寄り添った丁寧な解説に、参加者は引き込まれていたようでした。

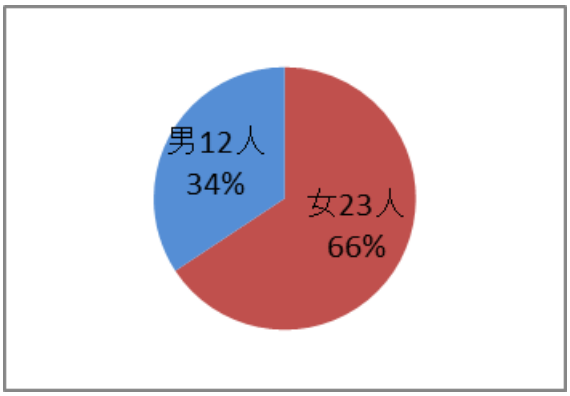
またお試し入会の案内では、現金で対応可能なことや、誰が受付をするかなどを参加者に分かりやすく伝えたことも希望者が増えた一因だったと思いました。

（普及室／堀本理華）

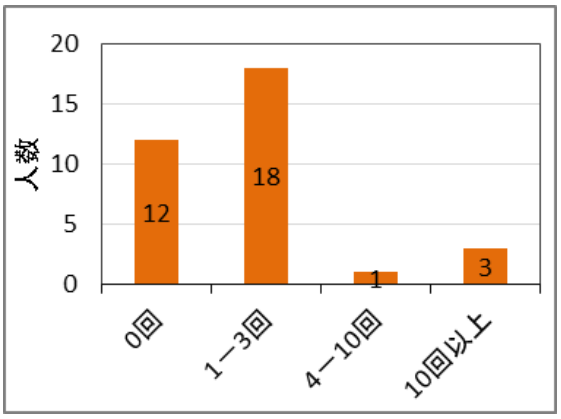
『はじめての鳥見たい（隊）！in 服部緑地』（大阪支部）

【日時】2016 年 1 月 31 日（日）9 時 30 分～12 時
【天候】晴れ
【場所】大阪府営服部緑地
【参加人数】35 名
【リーダー】16 名
【お試し入会】4 名（非会員のうち 1 割）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（1/12 に近畿＋三重の 5,104 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（11/20 から全国 27,000 名に送付）
＜新聞＞ 大阪日日新聞

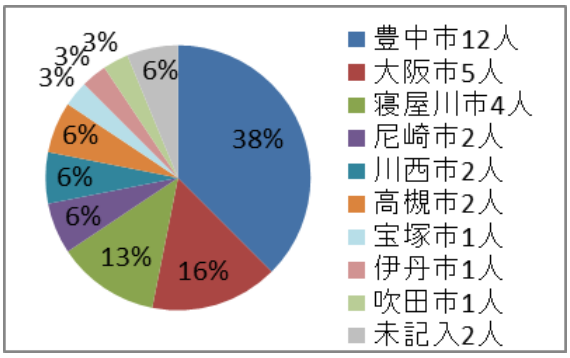
【性別】



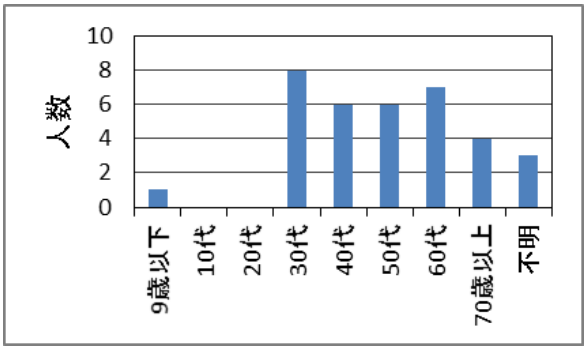
【バードウォッチングの経験回数】



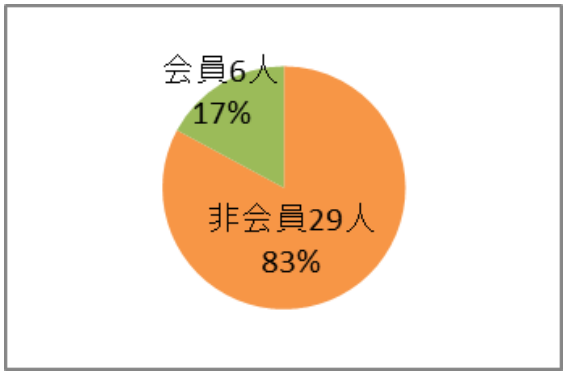
【お住まい】



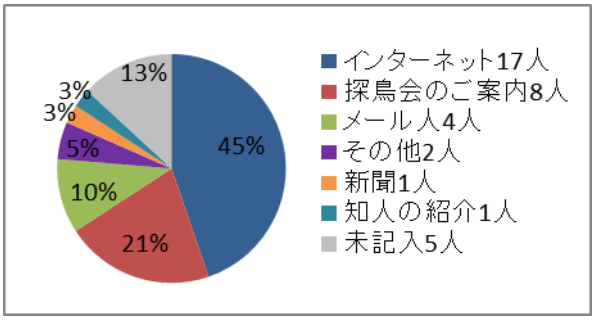
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

服部緑地は大阪市の北に位置し、甲子園球場33 個分の広大な敷地の中に緑豊かな自然と数多くの文化施設やスポーツ施設を抱える大型都市公園です。大阪の大動脈・地下鉄御堂筋線が最寄りの駅まで乗り入れ、一年を通してたくさんの府民が訪れています。

今回の探鳥会は、大阪支部が従来から実施している初心者対象探鳥会「はじめての鳥見たい(隊)！」の名を冠して実施されました。きめ細かな対応を実現するべく、リーダーの確保や資料・貸し出し用双眼鏡などの準備のために事前申し込み制をとられました。

若干の当日キャンセルがあったものの、定員を上回る35 名の参加者がリーダーたちとじっくりと水鳥や林の小鳥を観察しました。

■探鳥会の様子

前日までの寒さも和らぎ、暖かな日差しが気持ちの良い日和になりました。

集合場所の最寄駅前の広場では、たくさんのスコープと緑のフラッグ、腕章をつけたリーダーたちが参加者をにこやかに出迎えています。名簿記入、資料渡し、名札づくり、望遠鏡の貸し出し、と受付作業がスムーズに流れる動線設定が見事です。手の空いているリーダーは参加者の緊張をほぐすように穏やかに話しかけていました。

挨拶とコース説明のあと、名簿をもとに参加者を４、５名のグループに分けました。各グループを２名のリーダーが案内して、２時間程度はグループ行動です。大阪支部の期待の星、小学生リーダーはお子さん連れの家族のグループを担当してくれました。年の近いお姉さんリーダーに子供たちも嬉しそうです。

まず最初にじっくりと双眼鏡の使い方を練習するグループ、ゆっくりと鳥を探しながら歩きはじめるグループ、各リーダーが参加者の様子を見極めながらそれぞれに観察を進めていきます。

公園内の池のほとりでは、カモ類をはじめ、カイツブリやバンの観察にタップリと時間をとるグループも多く、鳥たちの姿にとどまらず、カイツブリやヒドリガモの鳴き声に聞き入る参加者の姿が見られました。

公園内の豊富な樹種と野鳥の食べ物の関係を解説するリーダーも多く、参加者の興味は尽きません。あっという間にグループ行動の２時間が過ぎて行きました。

グループごとに観察した鳥は異なりましたが、リーダーと一緒にじっくりと観察できたことで参加者はとても満足していました。他のグループの参加者と鳥を見た場所などの情報を交換する姿が印象的でした。

最後に、リーダーから参加者に、参加者からリーダーに、互いに今日の頑張りを称える拍手を交換して探鳥会が締めくくられました。

▲全員にスケジュールを説明

■参加者の声

30 代男性：インターネットを見て初めて参加しました。リーダーに詳しく教えてもらえてとてもよく鳥を見ることができました。また参加したいです。

80 代女性：鳥に興味があって観察会に参加したいのですが、なかなか行けるところが少なくて･･･。今日は家に近い場所での開催だったので思い切って来てよかったです。

■まとめ

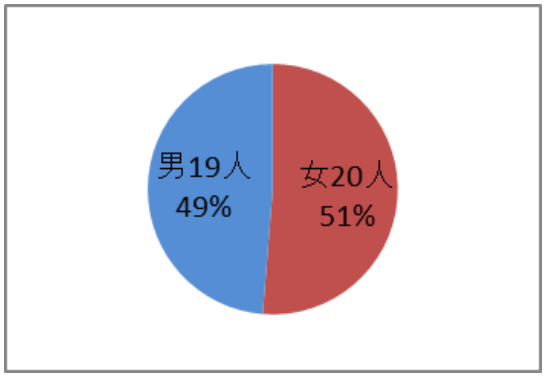
プログラムやコース管理のしやすさ、観察案内や説明のしやすさ、そして、参加者とリーダーの十分な交流による高い満足度とお試し入会（むくどり会員）への勧誘効果など、少人数グループの長所が活かされた探鳥会でした。これにはリーダー全員による探鳥会の趣旨や運営方法の共有が不可欠で、今までの大阪支部の経験の蓄積があってこそ実現しているのだと感じました。

（普及室／浅野綾子）

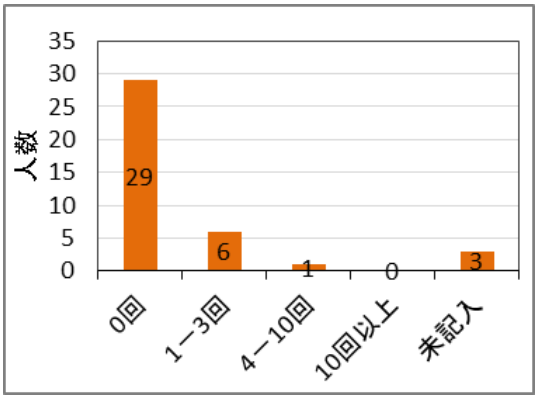
『初心者のためのバードウォッチングイン敷島公園』（群馬）

【日時】2016 年 1 月 31 日（日）9 時 30 分～11 時
【天候】晴れ
【場所】敷島公園
【参加人数】39 名
【リーダー】6 名
【お試し入会】12 名（非会員のうち 3 割）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信
（1/13 に関東＋福島、新潟、静岡、長野、静岡の 16,578 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（11/20 から全国 27,000 名に送付）
＜新聞＞ 読売新聞社
＜テレビ・ラジオ＞ NHK 前橋、ラジオ FM ぐんま（1/16）、NHK ラジオ

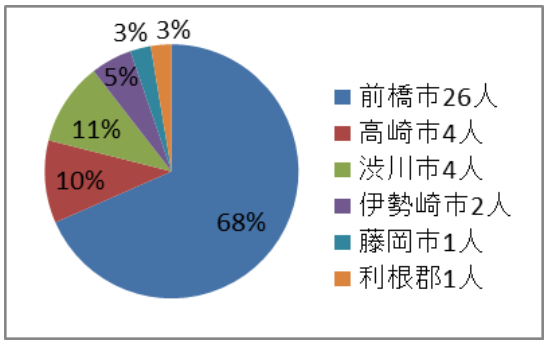
【性別】



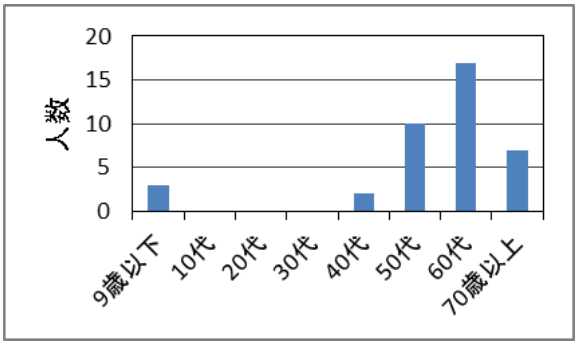
【バードウォッチングの経験回数】



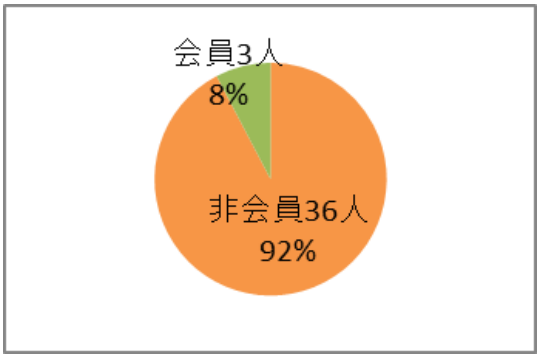
【お住まい】



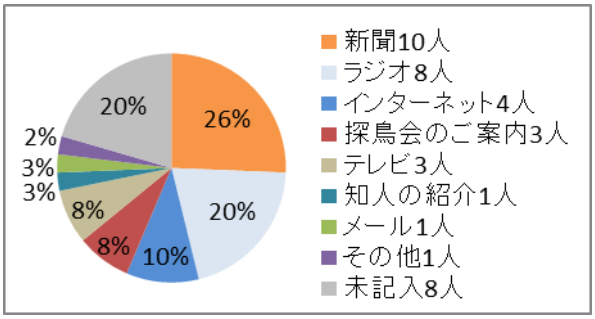
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



この日は財団職員が参加できなかったため、日本野鳥の会群馬の神宮さんから当日の様子をお寄せいただきました。

■バードウォッチング初心者を対象とした探鳥会開催

日本野鳥の会の本部と支部の共催による、野鳥に興味があるがきっかけがつかみにくいと云う方を想定した初心者向け野鳥観察会を、本年度は１月31日に前橋市の敷島公園で開催しました。当初、11 月開催を予定していましたが都合により１月の開催となりました。

敷島公園北側のバラ園第一駐車場に９時30分集合、双眼鏡の使い方などを説明した後、５グループに分かれて探鳥を行いました。各グループが別々に松林の中を自由に行動し、11 時に集合地点に戻って取り合わせ後、解散となりました。公園内では松の木が少し邪魔になるものの、見通しが良くあまり移動しなくても地上で餌を探す鳥が何種類も見られ初心者向きだったと思います。

探鳥を開始してすぐ、地上にスズメ、ツグミ、ハクセキレイ、シメ、イカルなどが見られしばらく釘づけ状態となりました。質問も活発に出され、１時間 30 分程の短い時間での探鳥でしたが、参加者には満足いただけたのでないかと考えます。

見られた鳥は、声のみは除いて、カルガモ、オナガガモ、キジバト、トビ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、シメ、イカル、カシラダカの２０種でした。

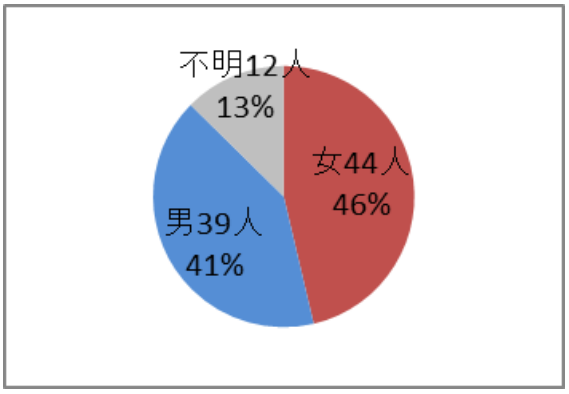
参加人数は 39 名で、全員に近い方が探鳥会は初めてと云う事で双眼鏡の使い方も分からなかったと云う人が多く、参加してよかったという意見が聞かれました。なお 12 名の方から「おためし入会」していただけました。

（日本野鳥の会群馬企画委員／神宮義憲）

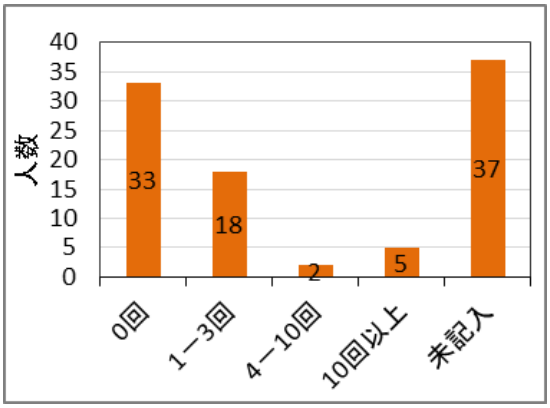
『宇都宮・中央公園ビギナー探鳥会』（栃木）

【日時】2016 年 2 月 13 日（土）9 時～12 時
【天候】晴れ
【場所】栃木県中央公園
【参加人数】95 名
【リーダー】8 名
【お試し入会】0 名
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん、支部 HP
＜メール＞ 一斉メール送信
（1/13 に関東＋福島、新潟、静岡、長野、静岡の 16,578 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（11/20 から全国 27,000 名に送付）
＜新聞など＞ 下野新聞、朝日新聞、よみうり、広報うつのみや、リビング栃木

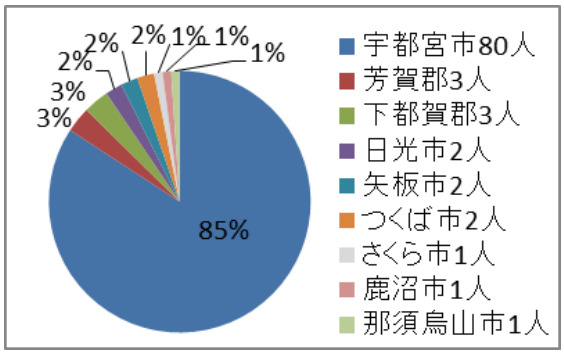
【性別】



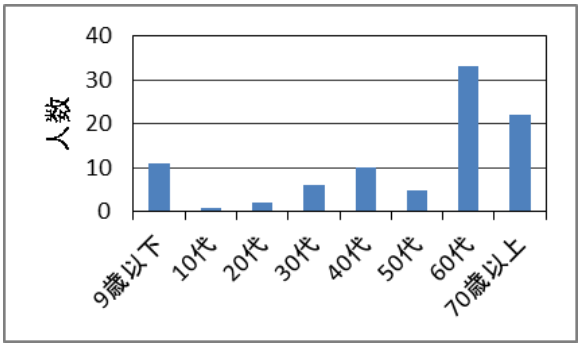
【バードウォッチングの経験回数】



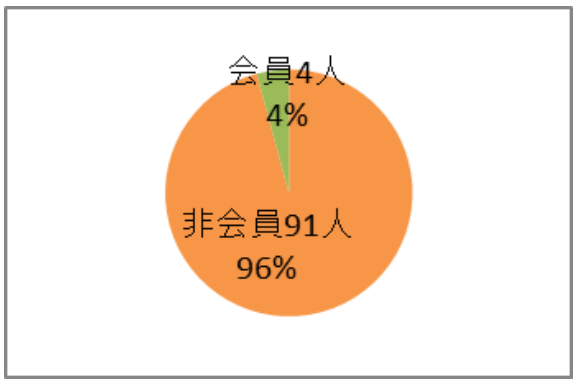
【お住まい】



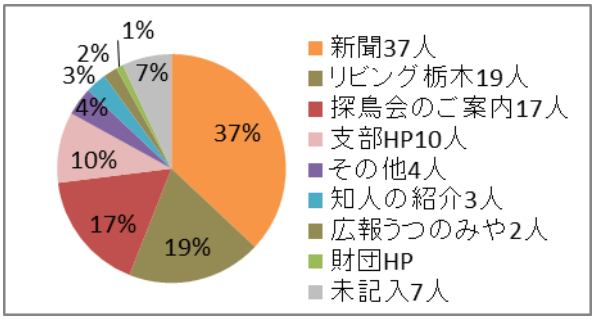
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の概要

栃木県宇都宮市にある「栃木県中央公園」は、栃木県が運営する公園で、宇都宮駅からバスで約 15 分の場所にあります。和洋折衷の廻遊式庭園が設置された園内には、県立博物館などが併設され、県民に広く利用されています。 探鳥会当日は、２月中旬ながら好天に恵まれ、95 名と日本野鳥の会栃木始まって以来の多数の参加者がありました。また、この探鳥会では、財団事務局より NIKON 提供の高性能双眼鏡「モナーク７」の貸し出しを行いました。

■探鳥会の様子

集合時間前に到着した参加者には、順次双眼鏡の貸し出しと使い方の説明を行いました。90 名を超える参加があったため、受付がやや混雑する場面も見られました。また、双眼鏡の貸し出しも財団事務局が用意したモナーク 7、20 台だけでは足りず、日本野鳥の会栃木が用意した双眼鏡で対応できました。その後の双眼鏡の使い方を説明する場面では、リーダーが素早く６箇所に分散し、なるべく少人数を対象に説明をしていました。その後、参加者を２グループに分け、探鳥会が始まりました。

探鳥会の工夫として、一般の人も多く訪れる公園であったため、通行の邪魔にならないよう、探鳥会参加者を園路の片側に寄せる誘導を行っていました。この役割はリーダーではなく、常連の参加者に役割をお願いしていました。

当日は池の水がメンテナンスのため、ほとんど抜かれており、林やその周辺の鳥の観察が中心となりましたが、イカルやシロハラ、セグロセキレイなども観察できたうえ、少ない水辺にもカワセミが現れて、参加者はとても喜んでいました。

▲探鳥会中の風景

▲探鳥会終了後、子どもに図鑑を買う様子

■参加者の声

60 代女性：私のような初心者が参加して良いのか、最初は不安だったけど、リーダーの人のお話が面白くて、面白くって、楽しかった！。

20 代男性：つい最近バードウォッチングを始めたけど、街中の公園にもいろんな種類の野鳥がいることに驚いた。

50 代女性：今まではお庭に来る野鳥だけ見ていたけど、これからは、外にも出てみようと思います。

70 代男性：貸してもらった双眼鏡は自分の２千円の双眼鏡より綺麗に見えてびっくりした。

■まとめ

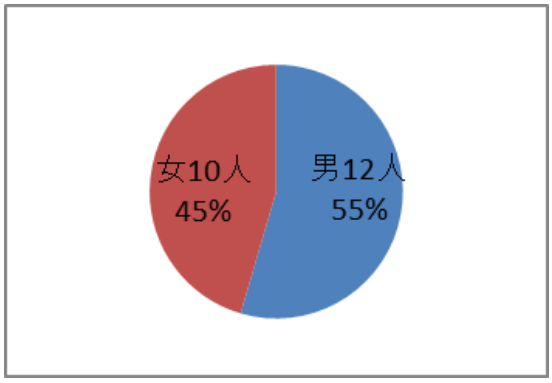
参加者が 90 名を超えた探鳥会でしたが、リーダーが「様々な状況を予め想定し、対策を準備していた」ことにより、スムースな進行がされていました。リーダーの方々は８時半の受付開始前に集まり、事前の打ち合わせで、参加人数が多い場合 2 グループに分けて行うことや、グループごとのコースの回り方などを確認していました。また、探鳥会中には１人のリーダーが、連絡係となり２つのグループ間を歩き回り、現状や終了のタイミング等をそれぞれのリーダーに伝えていたため、２つのグループが同時に解散場所に集まり、鳥合わせを行うことができました。

（普及室／清水久）

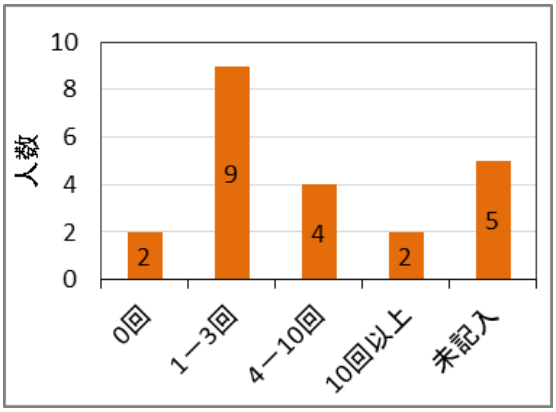
『小山・運動公園ビギナー探鳥会』（栃木）

【日時】2016 年 1 月 27 日（土）9 時 30 分～12 時
【天候】快晴
【場所】小山運動公園
【参加人数】22 名
【リーダー】13 名
【お試し入会】0 名
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信
（1/13 に関東＋福島、新潟、静岡、長野、静岡の 16,578 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（11/20 から全国 27,000 名に送付）
＜新聞ほか＞ 朝日新聞など

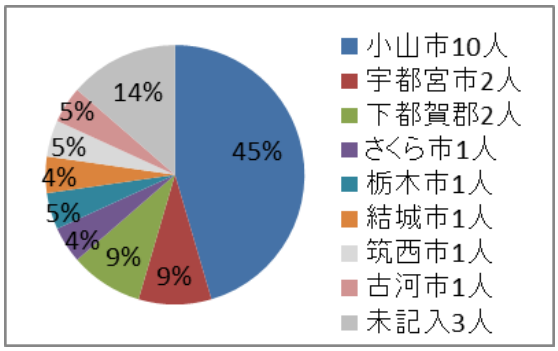
【性別】



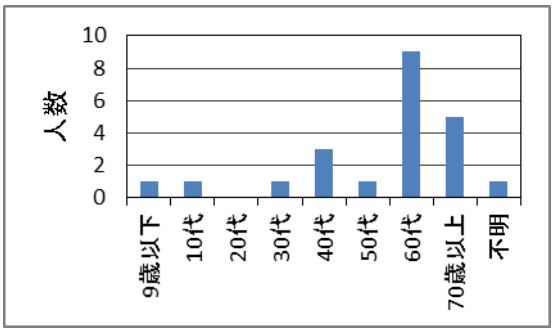
【バードウォッチングの経験回数】



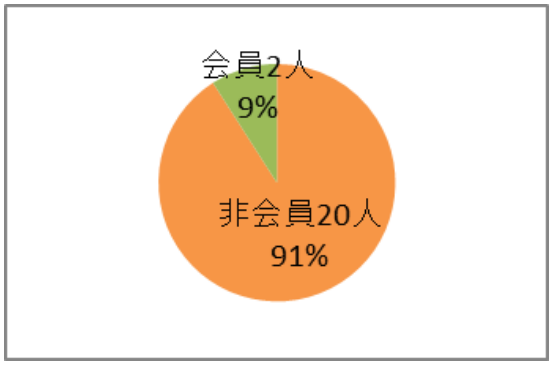
【お住まい】



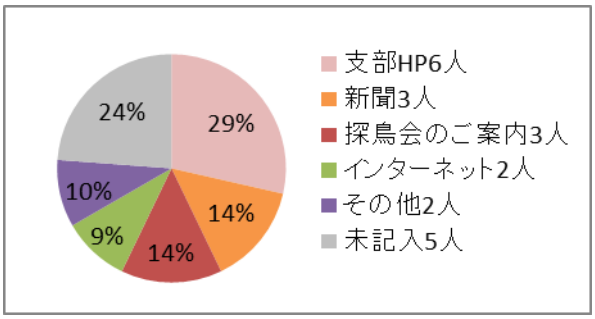
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



栃木県小山市で行われた「ビギナー向け探鳥会」に参加しました。栃木開催の「ビギナー向け探鳥会」は今回で 10 回目（最終回）。小山市といえば、平成 24 年にラムサール条約の登録湿地となった渡良瀬遊水地を抱え、ここ数年は柳生会長の講演会やツバメのねぐら入り観察会、ガイド養成講座など、小山市民を対象とした様々な普及活動を展開してきました。そうした効果がどのように表れているのか、ということも興味の一つとして参加してきました。

■経験者が多い!?

今回の参加者は、バードウォッチング経験者が多かった傾向があります。「会員を増やすための探鳥会」では、初めてバードウォッチングを体験する人が半分以上ということも珍しくありませんが、今回は初めてが２名、1～3 回目が９名、4～10 回目が４名、10 回以上が２名という結果でした。

栃木では、ビギナー向け探鳥会を県内各地（人口 10 万人以上の都市）で年間 10 回行っています。自宅近くの会に参加した人が、その後エリアを広げて何度か参加して、ある時「この会ならいいかな。」と入会に踏み切る、そんなストーリーが見えてきます。そういえば栃木では、仮入会を通り越して正会員への入会が頻繁に見られますが、これも他支部ではあまりないことです。

単発ではなく連続したビギナー探鳥会によって継続的にフォローしていく。これが栃木の特徴なのかもしれません。この日はお試し入会者はゼロでしたが、１回ごとの数字に一喜一憂する必要がないのです。

そしてもう一つ、先に述べた小山市による取り組みも一役買っているかもしれません。今回も会長の講演会に参加された方が何人か見られ、関心層が広がっているのではないかと推測できます。

▲池のほとりで観察中

■探鳥会の様子

～まずは見る練習から～

オリエンテーションの後、水鳥のいる池まで鳥を探しながら移動しました。この日の参加人数は 22 名。観察する鳥も、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシブトガラス、キジバト、コゲラ、シジュウカラなどを中心に、まずは全員が確実に見られる鳥を望遠鏡で観察しながら、目で追いかけて双眼鏡でとらえる練習や、見た鳥を図鑑で確認するといった基本を丁寧に伝えました。

またこの日のために、株式会社ニコン様からお借りした貸し出し用の双眼鏡（モナーク７）を参加者に無料で貸し出しました。よい双眼鏡で少しでも鮮明な画像を見ていただこうという配慮です。

～本格的に観察～

次に池に到着して周囲を １ 周しながら鳥を観察します。ここではやや踏み込んだ解説を行いました。池に浮かぶヒドリガモやオオバン、アオサギなどを観察しながら、体のつくり、食べている食べ物、しぐさや行動の特徴などについて解説していきました。林縁部で樹林と農耕地を行ったり来たりしているカシラダカの群れや落ち葉をひっくり返しながら歩くツグミを観察して歓声が上がっていました。

参加者は約１時間くらいの経験で、双眼鏡を自由に使いこなせるようになっており、自分で鳥を見つける楽しさも感じ取っていました。

～フリーハンドマイクの威力は絶大！～

各地の探鳥会に参加して気になるのは、リーダーの声が参加者に届いていないことです。お試し入会のご案内をしても、声が十分に届いていないケースが意外と多いのです。また、目の前の数人の方に解説しているときも、後ろの方にいる方にはほとんど届いておらず、今何をやっているのかがわからずストレスになっているケースがよくあります。さらに、ランナーや自転車が来た時に「道を開けてくださーい！」と声をかけた経験のある方は多いと思いますが、地声だと声を張り上げるため疲れるし、聞く方も鋭い声に圧迫感を感じてしまいます。

こうしたシーンを何度か見てきているので今回はフリーハンドマイクを持参し、試験的に支部のリーダーに使っていただきました。結果、その効果には絶大なものがありました。スピーカーからの音声は耳障りな印象は全くなく、しかも 20m離れたところでも明快に聞き取ることができました。さらに、声を張り上げなくて

も十分届くため、落ち着いた声で促すことができ、聞き手に圧迫感も不快感もありませんでした。

自転車やランナーの通行を知らせるときにも、落ち着いて促すだけでみなさんサッと動いてくれました。

このフリーハンドマイクは、神奈川ではすでに何個か購入し探鳥会に導入されているそうですので、ぜひ一度この通信でも取り上げたいと思っています。

▲フリーハンドマイクを使って鳥を説明

■参加者が、「入会したい」と思うとき

「会員を増やすための探鳥会」の担当者なら誰でも一度は考えること。それは、「参加者はどんな時に入会したいと思うのか？」ということではないでしょうか。

今回反省会の席で、ある新人女性リーダーから興味深いフィードバックをいただきました。鳥が見られた、よい話が聞けた、というのは探鳥会の魅力ではあるけど、それだけでは入会しようとは思わない。気持ちが動くのは、探鳥会から会の雰囲気が見えた時ではないかというのです。

「雰囲気」というのは総合的なもの。初参加者と常連の参加者が適度に混在して、普段の会の様子が見え隠れしながらも、常連参加者が初参加者に鳥以外の世間話をしたり、歩きにくいところを気遣ったり、他の公園利用者へさりげない配慮や、忘れてはならないのは野鳥や生き物への配慮などから醸し出されてくるものです。こうした会の雰囲気を感じ取った時に「自分もこの会の一員になりたい。」「この会を応援したい。」と思ってくれるのではないか、とのことでした。「リーダーだけでなく常連参加者をも巻き込んだ探鳥会のホスピタリティの向上」とでも表現できるでしょうか。

このフィードバックを受けて、「なるほどな」と思ったのと同時に、その難しさについても考え込んでしまいました。いずれにせよ、初参加者は会のことをどのように見ているのかについてもう一度考えてみようと思います。

（普及室／箱田敦只）

表２．2015年度「会員を増やすための探鳥会」結果一覧

開催日	支部名	開催場所	天気	全参加者数	非会員数（全参加者に占める割合）	お試し入会者数（非会員参加者に占める割合）	初心者数*1（全参加者に占める割合）	リーダー数（1人のリーダーに対する参加者数）
11/15(日)	茨城県	護国神社の森(桜山)	雨天中止					
11/23(祝月)	東京	代々木公園	曇り時々小雨	34	29(9割)	6(2割)	19(6割)	4(9名)
	奈良支部	平城宮跡・水上池	曇り	56*2	54(10割)	13(2割)	36(6割)	20(3名)
11/29(日)	東京	日比谷公園	晴れ	104	87(8割)	16(2割)	75(7割)	7(15名)
	千葉県	千葉公園	晴れ	36	32(9割)	6(2割)	19(5割)	10(4名)
12/5(土)	奥多摩支部	昭和記念公園	晴れ	109	104(10割)	28(3割)	80(7割)	17(6名)
	千葉県	柏の葉公園	晴れ	32	27(8割)	3(1割)	7(2割)	8(4名)
	栃木	羽田沼	晴れ	20	15(8割)	0*3	11(6割)	7(3名)
12/6(日)	和歌山県支部	和歌山城公園	曇り	24	24(10割)	0	16(7割)	9(3名)
12/12(土)	栃木	みかも山公園	晴れ	15	11(7割)	2(2割)	7(5割)	8(2名)
12/13(日)	埼玉	大宮公園	小雨	16	16(10割)	9(6割)	15(9割)	11(1名)
	茨城県	霞ケ浦総合公園	曇り時々小雨	34	33(10割)	5(2割)	26(8割)	3(11名)
	京都支部	岡崎疎水沿い	曇り	38	29(8割)	3(1割)	22(6割)	3(13名)
12/23(祝水)	京都支部	鴨川デルタ	曇り後雨	11	11(10割)	0	7(6割)	10(1名)
12/27(日)	栃木	井頭公園	晴れ	60	45(8割)	4*4(1割)	24(4割)	13(5名)
1/17(日)	和歌山県支部	和歌山城公園	曇り	29	26(9割)	3(1割)	23(8割)	10(3名)
1/23(土)	栃木	那須野が原公園	薄曇り	44	43(10割)	4(1割)	24(5割)	11(4名)
	神奈川支部	江ノ島	曇り	38	36(9割)	7(2割)	30(8割)	10(4名)
1/31(日)	大阪支部	服部緑地	晴れ	35	30(9割)	4(1割)	30(9割)	16(2名)
	群馬	敷島公園	晴れ	39	36(9割)	12(3割)	35(9割)	6(7名)
2/13(土)	栃木	栃木県中央公園	晴れ	95	91(10割)	0*5	51(5割)	8(12名)
2/14(日)	神奈川支部	山下公園	雨天中止					
2/27(土)	栃木	小山運動公園	晴れ	22	20(9割)	0	11(5割)	13(2名)

＊1　これまでのバードウォッチング経験が「0回または1-3回」の方
　　なお、柏の葉公園はバードウォッチング経験「ありorなし」で質問したため、経験「なし」の参加者を初心者とした
＊2　ほか10名以上が名簿未記入
＊3　ほか1名正式入会
＊4　ほか2名正式入会
＊5　ほか3名正式入会

「全国を対象にした鳥の行動のデータベースをつくることの大切さ」

■はじめに

日本野鳥の会神奈川支部では、1977 年から 40 年近くにわたって、鳥の分布と行動を神奈川県にくらす会員が情報カードに記録し、それを蓄積したデータベースをつくるという試みを続けています。

ご存知の方も多いと思いますが、その情報は、多くの人が利用できるように『神奈川県鳥類目録』という冊子として、1986 年以降は５年おきに出版され続けています。また、2002 年には『20 世紀神奈川の鳥』というタイトルで、1977 年からの約四半世紀にわたる情報の蓄積から見えてきた事実が、具体的な形でまとめられています。このデータベースのもつ価値は、多くの方が認められていることだと思います。

ここでは、神奈川支部が神奈川県を対象に続けてきたことを、さらに全国にまで広げることの価値について説明したいと思います。この試みによって、私たちが、鳥をとおして自然を理解したり、鳥たちがくらす場所を守る活動にどう役立つのかについて、短く説明します。

■どのような情報をどうやって集めるのか

ここで注目している鳥の行動データとはたとえば、次のようなものです。

- 鳥（種名）が、何月何日にさえずり始め、何月何日にさえずり終わったか。
- 巣立ち雛をつれた鳥（種名）を、何月何日、どこでみたか。
- 家の軒下や庭の木でみつけた鳥（種名）の巣には、何羽の雛が育っていたか。
- 鳥（種名）が食べていた生き物（昆虫や小動物、植物の実など）の種類と、食べていた場所。
- 初めて聞いた変わったさえずり。初めてみつけた変わった形の巣や、巣場所。

つまり、鳥たちの食べ物や巣づくりの情報など、鳥たちが、生きのびて子育てをするために必要な行動データです。その際、観察を行うための特定の地域、つまりフィールドを決めることが理想ですが、自分のフィールド以外の場所の探鳥会や調査地で見かけた行動、通勤途中や仕事のあいまに見かけた行動も、もちろん記録の対象と考えています。

神奈川支部では、いずれの場合も情報カードに記録し、所定の場所に送付するという方法と可能な範囲でコンピュータから（近い将来は、タブレットやスマートフォンなどからも）入力する方法も、併用してきました。対象を日本全国に広げる場合にも、これまで神奈川支部が進めてきたシステムをベースに改良すれば良いと考えられます。

■全国にわたって鳥の行動を記録することの役割

鳥の行動記録を全国にわたって集める一番大きな意義は、鳥の生活を支える行動が、地域を越えて同じかどうか、地域によって大きくちがう行動が見つかったとき、それはどういう行動で、それはどういったものか、などの情報を集めることができます。また、鳥の行動レパートリーが多い地域とそうでない地域が、どういった場所なのかを明らかにできるかも知れません。

例１.ウグイスのさえずり

たとえば、ウグイスのさえずりを例に考えてみましょう。ウグイスは、日本の森、とくに藪の発達した森に暮らす代表的な鳥です。「ホーホケキョ」というさえずりは、それを知らない人がいないと言っていいくらい、身近でとても分かりやすい鳥の行動のひとつです。このウグイスについては、生態もある程度研究が進んでいます。たとえば、一羽のオスが複数のメスとつがうこともある一夫多妻の鳥で、春先から夏までの長い期間、さえずり続けることなどが分かっています。また、さえずりに方言、つまり地域差があることもわかっています。

しかし、このウグイスが、たとえば冬の厳しい北海道と、冬も暖かく、食べ物も豊富そうな沖縄まで同じ期間さえずり続けているのか、そうでないのか。さえずる時間帯は同じなのか。さえずり方は同じなのか（たとえば、ホーホケキョなのか、ホーホケなのか、あるいは、ホケキョなのか）。平地のウグイスと山のウグイスではどうなのか。都市公園のウグイスと原生林のウグイスはどうなのか。他の鳥も多い本土のウグイスと、鳥の種類が少ない島のウグイスで

どうなのか。そして、最近分布域を急に広げている外来種でにぎやかな鳥、ガビチョウやソウシチョウいるところでは、囀る時間が変化したり、短くなったりしていないか。ウグイスの好きな藪を食べてしまうシカが増えた森と、そうでない森で、ウグイスの数はもちろん、さえずり方が違ってきていないか。そういったことは、ほとんど分かっていません。

こういったことが分かれば、ウグイスのさえずりという行動が、気候や人による開発、シカやガビチョウなど外来種の影響をどれくらい受けているのか、などを明らかにする第一歩になるかもしれません。こうして見えてくるウグイスのさえずり行動と、天候や人による大規模な開発の関係、あるいは、それらの大きな環境変化に対するウグイスのさえずりなどの反応の地域差などから、たとえば、ウグイスのさえずりの進化が明らかにできる可能性があります。その成果は、大規模に進む開発や気候変動が、ウグイスにあたえる影響を予測するための重要な基礎資料になるはずです。

それをウグイスの分布変化など、他の基礎情報と合わせることで、ウグイスの増減のメカニズムを明らかにすることが可能になると考えられます。そしてそれは、ウグイスに限ったことではありません。他の鳥たちにも広くあてはまることでもあるのです。

例２.雌のさえずり

もうひとつ例をあげます。今度は、ウグイスのさえずりよりも、もう少し珍しく、でも、鳥たちの生活を理解する上で大切な行動、雌のさえずりです。鳥の中には、雌がさえずる種がいることが、知られています。たとえばオオルリの雌がさえずることは、古くから有名です。しかし、この雌のさえずりの役割については、まだはっきりとしたことが分かっていません。また、どのような種の雌がさえずることがあるのかもまとまった情報がありません。これは、雌のさえずり自体があまり有名でないことと関係しているかもしれません。

もし日本中のバードウォッチャーが、雌もさえずっているかどうかに注目し、どのような種が、どこでいつ頃さえずっていたのか、情報を集めることができれば、小鳥の雌がなぜさえずるのか、具体的な理由を検討することができる可能性があります。そして、こういった雌もさえずるという興味深い行動をとる鳥たちが、そうでない鳥たちと同じように暮らしていける環境、つまり多様な行動をとる生き物にとって都合のよい条件を明らかにするきっかけになるかもしれません。

■鳥鳥のデータベースという遺産をみんなで育てる

生物季節（phenology フェノロジー）という言葉をご存知でしょうか。鳥がさえずり始めたり子育てを始める時期はいつか、蝶がいつから飛び始め、いつ姿を消すのか、といった生き物たちのカレンダーのことを指す言葉です。米国には、鳥や昆虫、そして植物などを対象とした生物季節の記録が米国全土にわたって 100 年以上蓄積されています。これを「データベースの知的遺産」と呼ぶ人もいます。

この生物季節のデータは、プロの研究者だけではなく、自然に興味をもつバードウォッチャーあるいはナチュラリスト、たくさんのアマチュアの方たちの手によって集められたものなのだそうです。ここで説明してきた、鳥の行動についてのデータベースは、この生物季節という現象を鳥に絞り、かつ、記録する項目をもう少し広く設定したものです。

米国の生物季節データベースの活動を紹介した BioScience という雑誌の記事 1 には、次のようなことが書かれています。

「ひとりの人が裏庭の花を観察することは、素敵なことです。でも、何千人もの人たちが、何万もの場所で同じような記録を何年にもわたって続けたとき、その情報の価値は、飛躍的に大きなものになります。たとえば、春の訪れが、長年にわたってどう変わってきたのか、そしてその変化がいったい何を意味しているのかを知ることができます。」

こうして多くの人たちが築きあげたデータベースの遺産が基礎になって、地球温暖化のインパクトが解明され始めていることは、皆さんもきっとご存知のことと思います。

そして日本。日本には、米国にまけないほど熱心に鳥を観察しているバードウォッチャーがいます。そして、ここでは例として神奈川支部の鳥類目録をあげましたが、探鳥会の記録を始めとして、長い期間にわたってしっかりとした情報を蓄積しているグループも少なくありません。私たちのくらす日本にも、いや日本だけにしかない、世界に誇れるような鳥のデータベースをつくる準備は、もう整っているのです。

（神奈川支部会員・東京大学／藤田剛）

1.Mayer A. 2010. Phenology and citizenscience(生物季節と市民科学). BioScience 60: 172-175.
2.Cooper CB,Dickinson J,Phillips T,Bonney R.2007. Citizen science as a tool for conservation in residential ecosystems(街や集落の生態系を保全する手段としての市民科学). Ecology and Society12
3.CohnJP. 2008. Citizen Science(市民科学).BioScience58: 192-197.

◆探鳥会保険集計結果（2016 年 1 月分）

1 月は 68 支部からご報告をいただき、計 275 回の探鳥会が開催され、のべ 7,169 人が参加されました。

表 3. 1 月の探鳥会保険集計結果（2016 年 2 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	26	4	1	31
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	1	4	0	1	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	108	44	10	162
小樽支部	2	4	7	3	14
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	12	0	3	15
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	9	10	5	24
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	4	31	1	4	36
秋田県支部	3	31	4	3	38
山形県支部	2	17	8	3	28
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	16	3	5	24
北上支部	1	9	0	2	11
宮城県支部	6	78	50	13	141
ふくしま	1	23	0	2	25
郡山支部	1	13	0	3	16
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	1	0	2	3
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	0	0	0	0	0
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	12	99	76	20	195
栃木	−	−	−	−	−
群馬	8	106	41	26	173
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	15	395	97	101	593
千葉県	13	183	63	56	302
東京	14	650	14	83	747
奥多摩支部	17	292	68	42	402
神奈川支部	15	234	63	52	349
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	26	4	2	32
石川	2	41	8	6	55
福井県	1	8	0	1	9
長野支部	2	52	9	4	65
軽井沢支部	1	14	9	1	24
諏訪	2	18	13	4	35
木曽支部	1	2	2	2	6
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	41	17	6	64
富士山麓支部	1	5	4	3	12
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	10	0	2	12
南富士支部	2	67	12	3	82
南伊豆	1	6	0	2	8
静岡支部	3	41	0	9	50
遠江	5	105	34	22	161
愛知県支部	15	204	162	38	404
岐阜	−	−	−	−	−
三重	4	20	23	6	49
奈良支部	5	112	45	10	167
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	4	27	43	8	78
京都支部	8	155	20	16	191
大阪支部	23	450	132	114	696
ひょうご	7	130	151	22	303
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	1	26	7	1	34
島根県支部	1	13	1	1	15
岡山県支部	6	107	55	20	182
広島県支部	3	44	41	15	100
山口県支部	7	38	36	8	82
香川県支部	2	72	18	2	92
徳島県支部	5	55	23	5	83
高知支部	2	19	20	2	41
愛媛	4	75	25	7	107
北九州	3	36	0	3	39
福岡支部	5	95	21	11	127
筑豊支部	1	7	2	1	10
筑後支部	5	71	12	10	93
佐賀県支部	4	54	36	6	96
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	4	66	5	5	76
大分県支部	2	10	13	2	25
宮崎県支部	2	25	26	3	54
鹿児島	3	49	16	11	76
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	275	4,737	1,598	834	7,169

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆ミニニュース

「日本野鳥の会群馬で、探鳥会担当者交流会が開催されました」

２月 11 日（祝木）午後、観音山バードハウス（群馬県高崎市）で日本野鳥の会群馬主催「探鳥会担当者交流会」が開催されました。日本野鳥の会群馬は、地域ごとに 10 の分会があり、普段は分会ごとに活動がされています。これまで担当者同士の交流の場はなかったところ、一昨年の探鳥会リーダーズフォーラムがきっかけとなって、今回、親睦と情報交換を兼ねて開催されました。

20 名程度が参加し、３グループに分かれて、探鳥会運営の中で感じていることや気になっていることを話し合いました。外部に対する支部のＰＲ方法やリスクマネジメントなどが話題にのぼり、お互いの分会の理解も深めながらの意見交換となりました。普及室からも会員を増やすための探鳥会の結果やミニミニ野鳥図鑑プレゼント葉書を使った広報戦略のお話をさせていただきました。群馬では継続してこのような場をつくっていきたいとのことです！

（普及室／堀本理華）

◆普及室からのお知らせ

■新小冊子「おさんぽ鳥図鑑」が発行されます！■

普及室では、バードウォッチングに興味を持つきっかけとなるような小冊子を制作していますが、この度そのひとつである「ミニミニ野鳥図鑑」をフルモデルチェンジしました。

「ミニミニ野鳥図鑑」は、３月いっぱいで配布を終了し、４月１日からは新しい小冊子「おさんぽ鳥図鑑」に変わります。「おさんぽ鳥図鑑」では、身近な野鳥 24 種類について、からだの大きさに注目し、ものさし鳥によって４つに分けて紹介しています。

なお、既に設置されている「ミニミニ野鳥図鑑プレゼント葉書」を通じてお申込みがあった方には、「ミニミニ野鳥図鑑」（在庫限り）と「おさんぽ鳥図鑑」両方をお届けして対応いたします。「おさんぽ鳥図鑑プレゼント葉書」も４月中旬に完成いたしますので、ぜひご利用ください。

■勉強会のご案内
「バードウォッチングから始まる環境にやさしいライフスタイル」■

野鳥を見ることは、地球にも、地域にもつながっています。
地域の自然を楽しみ、ゆったりと生きるライフスタイルがこれからの時代のロールモデルとなっていくことを、環境にやさしいライフスタイルという視点からお話ししていただきます。

【講　師】
上岡裕さん（エコロジーオンライン理事長）
【日　時】
2016 年４月６日（水）19 時～21 時
【参加費】無料
【会　場】（公財）日本野鳥の会　会議室
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル 3F
（東急目黒線「不動前」下車、徒歩５分）
http://www.wbsj.org/about-us/summary/office/
【お申し込み】先着順 30 名
e-mail：tancho-staff@wbsj.org
メールにて「4 月 6 日勉強会」と明記の上、
①お名前、②お電話番号、③人数
をご連絡ください。
【締切り】2016 年４月４日（月）
【お問合わせ】日本野鳥の会普及室
電話：03-5436-2622
e-mail：tancho-staff@wbsj.org

■2016 年度
「野鳥の子育て応援（ヒナを拾わないで）キャンペーン」が始まります■

野鳥の子育ての季節に、人によるヒナの誤った保護を防ぐために続けてきた当キャンペーン。今年で 22 回目を迎えますが、毎年問い合わせが途絶えることはありません。このキャンペーンが人と野生生物との関わりを考える機会になるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

＜ポスター掲示にご協力お願いします＞
（公財）日本鳥類保護連盟、ＮＰＯ法人野生動物救護獣医師会と共同でポスターを制作し、全国の幼稚園、学校、図書館などに掲示をお願いしています。皆様のお住まいの地域の掲示板や施設等で掲示にご協力いただける場所がありましたら、ご連絡ください。ポスターは、当会ホームページからダウンロードもしていただけます。

＜紙芝居や小冊子をご活用ください＞
ヒナを拾わないことは野鳥のためになることを伝える紙芝居『わたしのことり』、地面にいるヒナへの対処方法を解説した小冊子『ヒナとの関わり方がわかるハンドブック』をご用意しています。野鳥の子育ての時期にぜひご活用ください。詳しくは、当会ホームページでご確認いただくか、以下までお問合せをお願いいたします。

＜お申込み・問い合わせ先＞
日本野鳥の会　普及室　　普及教育グループ
〒141-0031 東京都品川区西五反田
3-9-23　丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：nature@wbsj.org
ホームページ：
日本野鳥の会　ヒナを拾わないで　で検索

■バードウィーク全国一斉探鳥会の広報をします■

１月末に連携団体の事務所に今年の「バードウィーク全国一斉探鳥会」の情報提供をお願いしました。３月１５日までに 40 支部から情報をいただいています。ご協力いただきましてありがとうございました。今年は財団で以下の広報を実施します。多くの参加者に来ていただけることを願っています。

（１）「探鳥会のご案内」送付
３月下旬に、パンフレット「探鳥会のご案内」を、東日本（北海道、東北地方、関東地方、新潟、長野、山梨、静岡）20,000 名、西日本（富山、岐阜、愛知、近畿地方、中国・四国地方、九州・沖縄地方）11,000 名の非会員（※1）に送付します。「探鳥会のご案内」には３月７日までに情報をいただいた 38 支部 54 回の情報を掲載しています。

（２）財団 HP 上に特設ページ開設
４月中旬頃開設予定です。

（３）一斉メール送信
４月下旬に全国約３万人（※2）に送信予定です。

HP は更新可能ですので、開催の予定がありましたら、是非お知らせください。

※1 普及室が発行している小冊子（ミニミニ野鳥図鑑、バードウォッチング手帖、鳴き声ノート、ヒナとの関わり方が分かるハンドブック、ツバメのねぐらマップ）に 2015 年度以降にお申込みいただいた方、2015 年度会員を増やすための探鳥会でお試し入会された方、栃木の会員を増やすための探鳥会に参加された方
※2 これまでに当会が制作した小冊子にお申込みいただいた方、普及室主催のイベントに参加いただいた方、ツバメの子育て状況調査にご協力いただいた方

▲探鳥会のご案内表紙（東日本版）

▲探鳥会のご案内表紙（西日本版）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇日本の野鳥は 633 種でよい？

日本の野鳥は 633 種とか、600 種以上などと言われるようになりました。ただし、日本鳥類目録改訂第 7 版に掲載された 633 種には、絶滅種やただ一回記録されただけの種も含まれています。また、「外来種・亜種」、「検討中の種・亜種」、「最近 50 年以上国内で記録がない種・亜種」という別のカテゴリーもあります。

『フィールドガイド日本の野鳥』は、リュウキュウカラスバトのような絶滅種も扱ってきたので、私が増補改訂版を担当した際に、絶滅種には種名の前に赤で×を記しました。目録 7 版に対応させた新版では、「最近 50 年以上国内で記録がない種」とされたリュウキュウガモなどに×を記すことにしたので、絶滅種は××としました。

目録 7 版での「外来種・亜種」は 43 種に及びますが、『フィールドガイド日本の野鳥』で外来種として扱っているテンニンチョウはそこに含まれていません。目録 7 版の「はじめに」を読むと、外来種については国内で繁殖が記録されたものと書いてあります。私もかつて埋立地でよく目にしたテンニンチョウですが、目録 7 版に載っていないのは繁殖記録が確認されていないためです。このように捉え方によって違いが生じる例として、『神奈川の鳥 2006-10』（日本野鳥の会神奈川支部発行）の鳥類目録では、目録 7 版では外来種とされているコジュケイが在来種・帰化種として掲載されており、別のカテゴリーで逸脱種（野外で観察された記録の少ない外国産の鳥）がまとめられています。

ついでながら新版をお持ちの方は P305 で、テンニンチョウの雌の嘴を見ていただけませんか？　増補改訂に取り組んだ際は高野図版で赤く描かれた嘴を少し直して赤味を減らしましたが、新版では再度、谷口さんに修正をお願いして、赤味はほとんど失くしました。

◇普通に見られる種とは？

1976 年、高野伸二が小学館から出した『日本の野鳥』で、観察頻度が表されました。そこで、珍しい鳥には×マークが記された結果、×マークの鳥を見ることに価値があるように捉えたバードウォッチャーが少なくなかったことを覚えています。

珍しい鳥を見たいと思うのは悪いことではありません。ただし、野鳥や自然を知るには珍しくない鳥も大切だし、野外識別には慣れが必要なので、普通の鳥をよく見ておくことは珍しい鳥を見つける、見分ける上でも役立ちます。私は、観察頻度については「いかに珍しいか」ではなく、「いかに珍しくないか」を示すために記号化を考えてきました。この本の使い方（新版 P14）の「観察頻度」の解説で、次ぎのように書きました。

・・・本書はごく珍しい種や絶滅種まで扱っているので、普通に見られる種を●○△の３タイプで示した。厳密に区分したものではないが、３タイプの印があれば先に知っておくとよい種、まずチェックすべき種であり、印がなければ普通には見られない種（飛来が不定期、迷鳥、とても少ないなど）と言える。

●広い範囲で、普通にいる
○範囲は広いが、多くはない
△地域や環境によっては普通
（ごく限られた分布、外洋の一部、数がとても少ないものは除いた）

増補改訂版での△は「北海道のみ、南方の島のみなど分布する地域が限られている種は除く」として、ハシブトガラやズアカアオバトは無印でした。が、それぞれ北海道や南西諸島では少なくないし、本書では分布図がそれを示しているので、新版では△を記すことにしました。「ごく限られた分布は除く」として新版でも△を記していないのは、南西諸島でも一部の島にしかいないキンバトなどです。

新版で「外洋の一部は除く」として△としなかったのは、伊豆諸島周辺など海域が限られるオーストンウミツバメなどです（外洋でも広く見られるハシボソミズナギドリは△のまま）。また、「数がとても少ない」として、無印、つまり普通としていないのはウズラ、チゴモズ、シマアオジなどで、解説文にも近年の減少について書き加えました。

◇野鳥は見分けやすい？

「日本の野鳥は 600 種以上」は間違いではないし、さまざまな種がいることを知るのは大切です。ただ、野鳥を見分けたい人が 600 種から 1 種を絞るしたら、大変なことのように感じてしまう心配は要らないでしょうか？

私は 1998 年に『新・山野の鳥』を担当した際、それまでの『山野の鳥』がワシやタカから始まっていたのを変えて「身近な鳥」を初め

にまとめました。「身近な・・・」と言っても、北海道や南西諸島では大きな違いがあるし、環境や季節、目にしやすさやわかりやすさなどさまざまな観点があるので、当時発行していた『探鳥会リーダー通信準備号』で考え方を紹介しました・・・「主要都市の庭や公園などの人家付近で見られる」という基準で 27 種をリストアップしました。

「野鳥は難しい」と思っていた人も、慣れて、比べるという識別ができるようになると、案外、簡単に感じるでしょうし、身近な種の多くはわかるようになるはずです。『新・山野の鳥』以降、野鳥を見分けるコツとして「慣れる、比べる、絞り込む」を提唱していますが、この「絞り込む」は種数が多くないからこそお勧めできるもの。地域や環境や季節から、そこにいるはずの種を絞り込めるのが野鳥の良いところ、と言えるのではないでしょうか？

「生物多様性は我が家から知るべき」と考えて、数年前から自宅敷地での鳥、昆虫やクモ、植物や菌類のリストを作っていますが、鳥以外はすべて未完成です。クモは 28 種までわかりましたが、アリやガ、コケやキノコなど何年たっても種が同定できないものが少なくありません。ちなみに、昆虫ではチョウ目の既知種数だけで野鳥の 10 倍の 6 千種、コウチュウ目では 1 万 6 千種に及びます。ダニや地衣類など種の同定が非常に難しい分野もあるので、野鳥は見分けやすい生物と言ってもよいはずです。

新版では、観察頻度について解説した後、「日本の野鳥」の説明で次のように記しました。

・・・日本で記録された 633 種の中で、各地で普通に見られるとして本書で頻度マーク●とした種は 110 種ほどで、頻度マーク○△合わせても 300 種に満たないので、半数以上は飛来が不定期かまれな種と言える。●の中でほぼ 1 年中見られるのは 50 種以下、・・・中略・・・、各地で普通に見られる種でも、半数以上は季節移動をしている。

（普及室／安西英明）

©谷口高司

▲今回は、新版で谷口高司さんに追加していただいた画像から、ミナミクイナです。目録 7 版ではコモンクイナやウズラクイナも新たに掲載されましたが、それぞれヒメクナ、ツルクイナの類似種の項目で解説してあります。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信３月号の電子メール版の購読者数は、先月から９名増えて818名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表４．探鳥会スタッフ通信３月号電子メール版の購読者数（2016年３月15日現在）

支部	購読者数		支部	購読者数
小清水	1		福井県	10
オホーツク支部	6		長野支部	2
根室支部	0		軽井沢支部	2
釧路支部	2		諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70		木曽支部	1
旭川支部	4		伊那谷支部	1
滝川支部	1		甲府支部	3
道北支部	1		富士山麓支部	0
江別支部	0		東富士	0
札幌支部	4		沼津支部	3
小樽支部	3		南富士支部	2
苫小牧支部	2		南伊豆	2
室蘭支部	5		静岡支部	3
函館支部	0		遠江	6
道南桧山	2		愛知県支部	33
青森県支部	1		岐阜	5
弘前支部	4		三重	19
秋田県支部	3		奈良支部	3
山形県支部	5		和歌山県支部	5
宮古支部	1		滋賀	19
もりおか	3		京都支部	31
北上支部	2		大阪支部	25
宮城県支部	39		ひょうご	14
ふくしま	3		NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1		島根県支部	2
二本松	1		岡山県支部	23
白河支部	2		広島県支部	8
会津支部	2		山口県支部	4
奥会津連合	0		香川県支部	6
いわき支部	1		徳島県支部	6
福島県相双支部	0		高知支部	1
南相馬	0		愛媛	14
茨城県	21		北九州	12
栃木	45		福岡支部	11
群馬	25		筑豊支部	19
吾妻	1		筑後支部	6
埼玉	37		佐賀県支部	5
千葉県	18		長崎県支部	1
東京	55		熊本県支部	12
奥多摩支部	47		大分県支部	3
神奈川支部	20		宮崎県支部	3
新潟県	1		鹿児島	3
佐渡支部	1		やんばる支部	0
富山	3		石垣島支部	1
石川	29		西表支部	2
			合計	818

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

「会員を増やすための探鳥会」を開催された地域の皆さま、お疲れ様でした。

また、「バードウィーク全国一斉探鳥会」の情報をお寄せ頂き、ありがとうございました。

「探鳥会のご案内」や HP 掲載準備のため、グー〇ルマップのストリートビューを使って開催地や集合場所の確認をしていると、パソコンの前にいながら日本列島縦断の旅をした気分になれます。そして、見られる野鳥の紹介欄を見ていると、本当に日本は縦に長い国なのだな、と実感しました。

我が家の前ではウグイスが少々賑やかなくらい盛んに囀っていますが、北はどの辺りまで初鳴きが進んでいるのでしょうか？これからは次の季節の使者、ツバメがやってくるのが楽しみです。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信　第 36 号

◆発行

（公財）日本野鳥の会　2016 年 3 月 17 日

◆担当

普及室　普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL：03-5436-2622

FAX：03-5436-2635

E-mail：tancho-staff@wbsj.org